

第29回 がん検診のあり方に関する検討会	資料 4-2
令和元年11月13日	

対象者のリスクに応じた がん検診のあり方について

健康局がん・疾病対策課

現状と論点

○ 「対象者のリスクに応じたがん検診」に関する議論の必要性

- 受診率や有効性の向上のためのリスクに応じたがん検診の在り方について、検討する。(経済財政運営と改革の基本方針2019(令和元年6月21日閣議決定))
- (中略)、受診率や有効性の向上のためのリスクに応じた検診の在り方について、2019年度中に検討し、結論を得る。(成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日閣議決定))

○ 「対象者のリスクに応じたがん検診」に関連するこれまでの主な意見

- がん検診の推奨度合いを、利益・不利益のバランスで考える場合、一番大きな要素は年齢と考えられる。なお、胃がんのピロリ菌や肺がんの喫煙等については、年齢以外のリスク要素として、検診を受ける利益の大きさに影響を与えるものであると考えられる。
- 新たながん検診の項目を、市町村の対策型検診として実施する場合、自治体が運用可能である仕組みが確立されていることは必要であるが、喫煙率やヘリコバクター・ピロリ感染等のリスク因子の保有状況が変化してきていることを踏まえていく必要もあるのではないか。
- 現在、隔年及び逐年で実施を推奨している中であっても、隔年で実施すべきところを、逐年で実施されているという現状がある。



○ 論点

- がん検診における「対象者のリスク」について、どのように捉えていくとよいか。
- 対象者のリスクに応じたがん検診のあり方について、今後、どのように検討していくべきか。

(参考) 個別技術に関する整理

○ 個別の検査技術に関する整理

- 【胃がん】 ペプシノゲン検査とヘリコバクターピロリ抗体検査の併用方法によるリスク層別化を行い、リスクに応じた検査を実施する検診が期待されている。ただし、リスク層別化された手段に対する胃エックス線検査または胃内視鏡検査の死亡率減少効果については、異なるリスクを有する集団では一般的な集団で想定できる効果と同等の成果が得られない可能性がある。(有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版)
- 【子宮頸がん】 HPV検査併用又は単独法による子宮頸がん検診は、推奨グレードとしてはB(利益が不利益を上回るため、対策型・任意型検診としての実施は推奨される)であるが、検診結果毎のアルゴリズムの構築・運用担保が必要(有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年版ドラフト)
- 【肺がん】 米国USPSTFは、高喫煙歴の55-80歳の者に対して、低線量CT検査を用いた年1回の肺がん検診を推奨する一方、低喫煙者等については、肺がん検診を推奨していない。(第27回検討会資料から作成)
- 【乳がん】 乳がん検診として、科学的根拠が示されているのはマンモグラフィだけであるが、高濃度乳房での精度が低いことが指摘されている。一方、超音波検査による死亡率減少効果は検証されていない。(第27回検討会資料から作成)

(参考)H30年度革新的がん医療実用化研究事業等における がん検診に関する研究

第27回 がん検診のあり方
に関する検討会

平成31年3月12日

資料3(一
部改変)

がんの種類	検査方法	研究課題	所属	研究者名(敬称略)
胃がん	胃内視鏡検査	個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究	公益財団法人 宮城県対がん協会	深尾 彰
胃がん	ヘリコバクター・ピロリ 抗体検査	中高年者におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌の 胃がん予防効果を評価するための長期追跡研究	国立研究開発法人 国立がん研究センター	井上 真奈美
子宮頸がん	HPV検査	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の 有用性に関する研究	学校法人慶應義塾 慶應義塾大学	青木 大輔
肺がん	低線量CT検査	低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した 無作為化比較試験および大規模コホート研究	学校法人 東北医科薬科大学	佐川 元保
肺がん 膵がん	尿中 バイオマーカー検査	独創的な尿中蛋白質断片解析法により同定した 高感度の早期肺癌・膵臓癌診断マーカーの検診への 導入を目指した多施設検証と企業化の実現	国立大学法人 宮崎大学	中里 雅光
乳がん	乳房超音波検査	超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する 比較試験	国立大学法人 東北大学	大内 憲明
大腸がん	大腸内視鏡検査	対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の 有効性評価のためのランダム化比較試験	学校法人 昭和大学	工藤 進英
大腸がん	大腸内視鏡検査	人工知能技術を用いた大腸内視鏡検査における 病変検出・診断支援技術の開発	学校法人慈恵大学 慈恵医科大学	炭山 和毅
膵がん	血液 バイオマーカー検査	血液バイオマーカーを用いた効率的な膵がん検診の 実用化	国立研究開発法人 国立がん研究センター	本田 一文
膵がん	胃内視鏡検査	最新の高感度変異解析技術を用いた 「胃カメラしながら膵がん検診」の開発	国立研究開発法人 国立がん研究センター	谷内田 真一

(厚生労働科学研究)

- 子宮頸がん HPV感染検査 研究課題 「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」
慶應義塾大学 青木大輔